

農事組合法人 しもつコープファーム

視察レポート

日時 2019年8月20日 AM9:00 から

場所 組合事務所・集荷場 和歌山県海南市下津町方 197-1

圃場 和歌山県海南市小野田

参加者 河手松戸営業所所長兼営業部長、謝花、斎藤（洋）、佐々木、清水。

関東給食会農産物部会員 計 18 名

作成 2019.8.29 清水



昨年からみかんでお世話になっているしもつコープファームさんの事務所、集荷場にお邪魔してきました。

下津町は、和歌山県の北西部の海岸沿いに位置し、年平均気温 16.7 度、降水量 1317mm、日照時間 2089 時間と黒潮の影響で比較的温暖であることなど、その立地条件が果樹栽培に適した地域です。平地

は少なく、みかんや桃の果樹園がそこら中に広がっていました。

しもつコープファームは、下津町内の農家有志が中心となって、安心、安全な農産物を求める消費者と提携しながら、農家経営を守っていくために、1980年5月、22名で「下津町農民組合」を結成。その後、1987年6月に産直事業を法人化して「農事組合法人しもつコープファーム」を設立。現在約100名の農家です。

みかん・中晩柑類・びわ・キウイ・スモモなど約20種の果樹品目を扱っています。

二階の事務所で話を聞いたあと一階の選果場を見学しました。



ここでは生産者から運び込まれたみかんを選別、計量しコンテナや箱に入れます。



左側が腐敗センサー。サイズや色キズなど外部の異常を検査。

右側が雑賀技研研究所のシトラスセンサー。果物を非破壊で、瞬時に糖度・酸度・内部障害（す上がり）などを全量検査する大変高価な装置。

今は、摘果中で集荷は無し。

選果場を見た後、車で30分ほど離れた、しもつコープファーム理事奥野さんの圃場にお邪魔しました。

朝まで降った雨のおかげで非常に蒸し暑かったです。



圃場の広さ約 1.6 ヘクタール。栽培本数 1600 本程度。

レモン・極早生みかん・八朔・ぽんかん・いよかん・はるみ・ネーブル・

はるか・ゆら早生みかん等栽培しています。





左がはるか。

右が試食をしたゆら早生みかん。見た目通り凄く酸っぱいですが、糖度 10～11 度になると出荷するそうです。

総括

少子高齢化、後継者労働力不足の問題や、安定した経営収入などのために、地域の農家同士が結びつき協力していました。

他の生産者も一緒であったが、何かを訪ねると沢山の言葉で答えて

くれました。商品や自分の仕事に責任と情熱をもっているからだ
と思う。自分もこの生産地の情熱を、商品と一緒に届けられたらと思
いました。

以上。